国語	第１学年	尾道市立土堂小学校	指導者　島本　佳代子

単元名

「たのしんでくれるかな？　ぼく・わたしの『おおきな　かぶ』」

本単元で育成する資質・能力　　思考力・表現力

１　単元について

○　本単元は，小学校学習指導要領第１学年及び第２学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には，以下のように示されている。

(1) ウ　場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

（１）単元観

本単元では，児童が関心や意欲をもって本教材を読み深め，読み取ったことをもとに，「もしも，ねずみが引っ張っても抜けなかったら，誰を呼んできますか。」と投げかけ，応援者の順序やその規則性から想像を広げ，自分なりにお話の続きを書くという活動を設定した。

本教材は，おじいさんが育てた大きなかぶを，おじいさんの身近な生き物を一人（一匹）ずつ呼んできて，みんなで力を合わせ抜くことができたロシア民話である。場面の展開が同じパターンの繰り返しで構成され，登場人物の登場の仕方や行動も分かりやすい。挿絵や文章をつなぎながら物語のあらすじを読み取り，繰り返しによって生まれるリズムやおもしろさを味わわせることができると考える。また，主語と述語の関係がどの文も明確であり，主述の照応や助詞の使い方を意識させることができる作品である。さらに，応援者がおじいさんの身近にいる生き物で，次第に小さな生き物になっていくことや協力して目標を達成することの大切さにも気付かせたい。

そして，１年生のこの時期に文学的文章での学習において続き話を創るという単元を設定することで，低学年の「読むこと」の目標に迫りながら，中学年「C 読むこと」の目標である「目的に応じ，内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付ける。」ことを見通した指導を行うことができると考え，本単元を設定した。

（２）児童観

国語科の実態

本学級の児童は，平仮名の読み書きを一通り終え，本読みや読書に興味・関心をもつようになってきている。読書が好きな児童は22名であり，これまで絵だけを見て絵本を楽しんでいた児童が，文が読めるようになったことで内容のおもしろさにも気付けるようになってきた。

音読については，目で文章を追いながら音読できる児童は21 名，五十音のひらがなが正しく書ける児童は 20 名である。ひらがなを学習し終え，少しずつ文字と音が合致し読み書きができるようになってきた。前単元の物語文「とん　こと　とん」の単元テストで 90 点以上の児童は21 名であり，誰が，どこで，何をしたのかを文章中から正しく抜き出す問題を正答した児童が 20 名であった。鏡文字になったり余分な文字が入っていたりする誤答が多く，主語や述語を正しく読み取ることが不十分である。

資質・能力に関する実態

前単元の物語文の学習では，動作化を取り入れながら，登場人物の様子を想像しながら楽しく読みとることができた。しかし，叙述や挿絵を根拠として自分の意見をもつのではなく，自由な想像からでしか意見をもてない児童が９名，自分の考えが言葉にできずノートに書くことができない児童が３名いた。

以上のことから，言葉によって感じたり想像したりする力や，感情や想像を言葉にする思考力・表現力の資質・能力に課題があると言える。

（３）指導観

本単元の始めに，前単元の物語文で学んだ読み方を振り返る。本単元では，叙述を基にして想像を広げて読むことができるよう，場面や登場人物の様子を読み取っていく。その際，誰が，誰を引っ張ったのかを叙述と挿絵を行き来しながら正しく読み取り，動作化で確かめていく。

課題達成のために，自分なりの「おおきなかぶ」を創るとなれば，まずは内容を理解する必要がある。課題解決に向かって，内容の読み取りを基にねずみにもう一人（一匹）加えた「おおきなかぶ」を作成し課題達成を目指すとともに，新たな読書の楽しみ方を知る単元としても設定したい。

単元の冒頭では，文部科学省「親と子の読書等に関する調査」より，平成 17 年度に実施された小学生に，本を読むことが好きかどうか質問した調査結果を基に，問題を知ることから始める。小学生の約半数（46.5%）の児童しか「読書が好き」と感じていないことを伝え，クラスの実態とのずれを感じさせる。そこから，「来年小学生になる子たちに，自分たちの『おおきなかぶ』を創り，ブックトラックに入れておこう」という活動を設定し，課題を「どうすれば楽しんでもらえるお話になるのか」と設定する。

児童の実態から，さまざまな語彙に触れさせる環境作りをすることで，自分の考えと合致した言葉を選んで使うことができると考える。語彙表を掲示し，思考力・表現力の資質・能力を伸ばす手立てとする。

２　単元でめざす児童の姿

○　「おおきなかぶ」に興味をもち，文章を読もうとする。　（国語への関心・意欲・態度）
○　場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。　（読むこと）

3　領域「読解」の系統

一年

5月【とん こと とん】
お話を読んで楽しむ。

7月【おおきなかぶ】
場面の様子を想像しながら楽しんで読む。

9月【サラダでげんき】
物語に出てくる人物と，その人物の行動に注意して読む。

11月【おとうとねずみチロ】
いろいろな物語を読み，人物の好きなところを紹介する。

2月【スイミー】
物語の中で好きなところを選び，声に出して読む。

二年

6月【お手紙】
人物がしたことの順序やそのときの様子に気を付けて読む。

4　単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	「おおきなかぶ」に興味をもち，文章を読もうとしている。	場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。	文の中における主語と述語との関係を理解している。

5　本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元において，課題解決のために，想像を広げながら考える，「おおきなかぶ」の続き話を創る活動を通して，叙述から想像を広げたり，自分の思いや考えを言葉にしたりする思考力・表現力（スキル）を育むことができると考える。

6　指導計画（全10時間）

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	**ふりかえり** **課題の設定** 前単元の物語文の読み方をふり返り，題名読みをして内容を想像する。 読書が好きな小学生が半分しかいないという問題があることを知り，来年入学する子どもたちのために楽しい「おおきなかぶ」をつくるという課題を設定し，学習活動の相手・目的意識をもつ。（1）	題名から，どんな内容なのか想像を広げ考えている。【読む】（ノート，発言） 問題を知り，そこから課題意識をもち，課題解決のために内容を読みとる必然性を感じている。 【関・意・態】（行動観察）	学習活動のゴールである相手と目的を明確にもち，単元の課題を設定している。 （行動観察）
二	**情報の収集** 範読を聞いて話の大体をとらえ，再話をする。（1）	お話の順番を正しく読み取ることができる。【読む】（ノート，発言）	叙述から想像を広げたり，自分の思いや考えを言葉で表現したりする力を身に付けている。（ノート）
	整理・分析 かぶに込めたおじいさんの願いや，できたかぶの様子を読み取る。（1） 登場人物の大きさや人数とかぶの大きさを関係付けて場面の様子を読み取る。（3）	語のまとまりや繰り返しの表現に気を付けながら音読している。 【読む】（行動観察） 登場人物の行動から場面の様子や登場人物について想像しながら読んでいる。 【読む】（ノート，発言） 文の中における主語と述語との関係を理解している。【言語】（ノート）	
三	**まとめ・創造・表現** 叙述や挿絵を基に，教材文の続き話を考える。 （1）（本時7／10） 文章を整えたり挿絵を描いたりして，本を完成させる。（1）	おじいさんの身近な生き物や，だんだん小さい生き物を呼んでいるという登場人物の規則性を読み取っている。 【読む】（ノート，発言）	
	実行 ２年生に作品を紹介し，感想や助言をもらう。（1）	２年生に自分の「おおきなかぶ」を発表し，課題達成のための助言をもらい，改善しようとしている。 【関・意・態】（行動観察）	
	ふりかえり 自分の作品を友達に読み聞かせしたり，友達の作品を読み聞かせてもらったりして，友達と評価し合う。 想像を広げながら読むことをまとめる。（1）	語のまとまりを意識したり，リズムに注意したりして，自分の作品を友達に読み聞かせしている。【読む】（行動観察） 本単元で学んだ物語の読み方を振り返っている。【関・意・態】（行動観察）	

7　本時の展開

(1) 本時の目標

物語全体の展開をふり返り，場面や登場人物の様子について考えることを通して，想像を広げて新たな登場人物を考えることができる。

(2) 観点別評価規準

「おおきなかぶ」の新たな登場人物について，叙述や挿絵を基に想像を広げて考えている。

【読むこと】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する児童への支援（◆）	評価規準（評価方法） 教科の指導事項（〇）
1　本時のめあてを確認する。	・　前時までの教材文の読み取りをふり返る。 ◆　登場人物の規則性に気付きやすくするために，板書に挿絵を貼ることで，視覚的に把握しやすくする。 ・　ふり返りの項目を提示することで，学習の見通しを持たせられるようにする。	
ねずみはだれをよぶか，そうぞうしよう。		
2　教材文を音読し，本時の見通しをもつ。	・　全文通読することで，登場人物の順序を確認できるようにする。 ・　どの場面を考えるのかを確認し，全員がめあて達成のための土台に立たせられるようにする。	
3　ねずみの次に誰を呼んでくるか考える。 4　自分の考えを話し合う。 (ペア→全体)	・　ノートの書き方を板書で確認し，呼んでくる人物とその理由を書かせる。 ◆　どこに何を書くか，マス目入り黒板で提示する。 ◆　登場人物がだんだん小さくなっていく様子が分かるよう挿絵を掲示し，視覚で順序が捉えられるようにする。 ・　ペアで意見を交換させ，自分の考えを声に出して伝えることで，考えを整理させ，全体交流につなげられるようにする。 ・　登場人物が，①だんだん小さくなっている②おじいさんの身近にいる人物という２つの条件を満たすかどうかで意見を整理することで，その生き物の共通点を把握しやすくする。	〇「おおきなかぶ」の新たな登場人物について，叙述や挿絵を基に想像を広げて考えている。 【読む】(ノート)
5　自分の「おおきなかぶ」の本に新たな登場人物を加えて本を完成させる。 6　まとめと振り返りをする。	・　「想像する」こととはどのようなことかを確認し，ねずみの次に誰を呼んでくるのか再考させる。 ・　登場人物が増える度に繰り返しでてきた「～が…をひっぱって」の表現を教材文で確認することで，自分が考えた新たな登場人物を加えた文章を書きやすくする。 ・　「想像して読む」ことは，叙述や挿絵を基に考えることをまとめる。 ・　①本時のめあてが達成できたか②すらすら音読ができたか③友達の発表をよく聞いたかの３点を３段階で評価し，さらに自分の分かったことを振り返ることで，身に付いた力の自覚や学習意欲につなげられるようにする。 ・　自分が考えたお話を音読する。	